

**編集後記：**早いもので「天気」の編集委員になって18年、編集後記を書くのはこれで10回目になります。この間のIT（情報技術）の進歩・普及には目覚ましいものがあり、「気象集誌」はWeb化され、「天気」の記事もネットで読めるようになりました。ITが気象業界・気象学に大きな影響を与えていることは言うまでもありません。私の周りでも多くの観測機器はネットを通じて遠隔制御できるようになり、現場に常駐せずとも観測ができるようになりました（便利になった反面、現象を体感する機会が減ることになり、少し寂しい気もしますが）。また、従来からあった観測やモ

デリングなどの研究分野の量的・質的发展だけでなく、新たな研究分野も生まれ、今年の秋季大会でもディープラーニング（深層学習）をはじめとしたAI（人工知能）の活用に関するセッションが設けられています。

私自身はIT化の波に置いていかれた感があり、今後のさらなるIT化により気象業界・気象学がどう変わっていくのか、想像するのも難しいです。とりあえず長年使っているガラケーはスマートフォンに変えようかな、と思っている今日この頃です。

（川島正行）